

## 『保守と革新の近現代史データベース』の一部公開と進捗状況

### データベース作成委員会

二〇一一年四月、早稲田大学が運用するデータベース横断検索サイト「早稲田大学文化資源情報ポータル」内に「保守と革新の近現代史データベース」(以下「保守と革新DB」と略す)を開設・公開した(<http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/damjh/>)。

二〇〇九年度より運用が開始された「早稲田大学文化資源情報ポータル」は、演劇博物館・會津八一記念博物館・大学史資料センターが個別的に構築してきたデータベースを移管し、統合検索を可能とした新システムである。現在、運用サーバーの管理については演劇博物館デジタル・アーカイブ室が担当している。

今回公開した「保守と革新DB」は、大学史資料センターが所蔵する二つの大型資料群、すなわち①「堤康次郎関係資料」(総数一五、六四七点)と②「日本社会党関係資料」(総数五、三九三点)を画像データベース化し、広く一般に公開しようという試みである。二〇一〇年度に日本学術振興会科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の助成を受け、委員長吉田順一(大学史資料センター前所長)のもと構成された「データベース作成委員会」がその実務に当たった。

両資料群の寄贈経緯・学問的位置づけやデータベースの意義については本誌前号（第四二巻）所収の『保守と革新の近現代史データベース』について」に譲り、ここでは現時点における公開状況と今後の見通しについて報告を行うこととする。

## 一 公開状況

二〇一一年一〇月末日現在における公開状況は以下の通りである。

### ① 堤康次郎関係資料

#### 書類の部

政治の部

資料点数

二、七九六件

公開点数

二、一四九件

### ② 日本社会党関係資料

#### 党中央

資料点数

三、七〇二件

公開点数

五二一件

## 二 今後の見通し

以上のように、現時点において公開済みの資料は二、六七〇点にとどまっている。ここに今年度公開準備作業を進めている五、六一〇点を加えても総資料（堤資料・社会党資料合計）約二万点の半数にも満たない。

そこで今後の見通しとしては、まずは今年度作業を進めている資料について、個人情報等に関する最終確認を速やかに進め、公開を図りたい。また、二〇一一年度は科学研究費補助金の助成を受けることができなかったが、二〇一二年度の助成に関してはすでに申請を行った。その内容は、二〇一二年度から二〇一四年度の三年計画をもって、未公開資料の全面公開を進めるというものである。

もともと、資料群の中には定期刊行物の類も数多く含まれていることから、全面公開とはいっても、デジタル化対象資料の取捨選択という作業も現実的には必要となってくるはずである。この点は予算及び助成金額と照らし合わせながら柔軟に対応していきたい。

さらに、上記の作業と並行して、「保守と革新DB」の広報活動にも意を払っていく。具体的には、大学史資料センターホームページ (<http://www.waseda.jp/archives/>) におけるデータベース解説ページの作成・更新や、国立国会図書館データベース・ナビゲーション・サービス (Dnnavi) への登録などである。これらはいずれもすでに実行に移しつつあるが、今後はデータベースを活用した研究の紹介や関連する他のデータベースとのリンク設定など、幅広い可能性を模索していきたいと考えている。